

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0801 三重県鈴鹿市神戸7-1-5 TEL:059-381-3513／FAX:059-381-3514

東京／〒100-8981 衆議院第一議員会館428号室 TEL:03-3508-7128／FAX:03-3508-3428

○とにかく、やるしかない。政策実現！

鳩山内閣の支持率が落ちています。心が痛みます。一方で、ここは、割り切ってしまうという思いも出てきました。

小沢さんや鳩山さんの問題が国民の反応に大きく影響しているとすれば、それは、本人の責任でちゃんと解決すべきものだし、最終的には、そうした対応が出来るリーダーだと信頼していくことです。

今、自分の立場でやるべきことは、文科省改革と新しい政策立案で、政権交代に対する国民の期待に真摯に応えることだと思っています。半年たって、やっと、中身が見えてきました。官僚機構をしっかりと動かしていける自信も出てきました。

○高速増殖炉「もんじゅ」の再稼働

「もんじゅ」は、原子力発電でも特別な炉の開発を担う原型炉です。核反応の過程で燃えないウランをプルトニウムに変換して、燃やした燃料以上に新たな燃料を作り出す高速増殖炉です。「ふげん」は、天然のウランを濃縮せずに使えることから始めて、プルトニウムまで何でも燃やせる転換炉だったのです。二つの発電所は福井県敦賀市の敦賀半島の両脇に位置しています。阿弥陀如来の両脇に鎮座する文殊菩薩と普賢菩薩からの命名からは、建設当時の技術者の「祈り」が伝わってきます。ナトリウムの漏洩事故から15年たった今「もんじゅ」の運転が再開されようとしています。「ふげん」は、プロジェクトが中止されて、今は、発電所の解体が始まり、原子力廃棄物処理の実験台になっています。これらの発電所は文部科学省の所管です。

先日、福井の現地を訪れました。運転再開をひかえて、現場の職員への訓示することと、知事や市長さんに国として安全確認ができたことを報告し、地元の運転再開への合意を得る手続きに入って欲しい旨を伝えることが目的です。安全に対して万全の体制を作っていくことが、第一。一方で、15年前の事故の教訓が生かされているか判断することです。地元住民に対して事故の状況を一部、隠そうとしたり、さらに点検をしたら、排気ダクトに腐食した穴が開いていたなどという事業組織の体質や管理体制が問われました。一番

大事な、「信頼」の絆が断たれたと言うことです。現場では、原子力機構と言う新しい組織になって15年の努力を経て、この信頼の絆を構築しなおすことが出来たと言います。私の仕事は、このところを、もう一度、再点検することだと思っています。原子力の平和利用はもちろん、安全に高度技術を使いこなすことが出来るかどうか、詰る所人間の心のもち方です。

○授業料無償化と朝鮮学校

高等学校の授業料無償化で、朝鮮学校の生徒への支給をどうするかが問題になりました。世界的な認証機関に認められるインターナショナルスクールや、韓国、中国などの特定の国の制度に乗っている民族学校などは、それぞれ母国に確認の上、日本の高等学校に類する学校の生徒に4月から就学支援金の給付が始まります。一方で朝鮮学校については、北朝鮮と国交がないために、判定は、別の客観基準によります。文科省で専門委員会を作り、独自の基準を定めた上で、それぞれの学校をチェックし、給付の是非を判定していくことになります。基本は、「高等学校の課程に類する課程を有しているかどうか」です。

こうした過程の中で、同じ朝鮮学校でも基準が満たせなかったり、情報の開示がされないために判断が出来なかったりする学校が出てくる可能性もあります。これを機会に、朝鮮学校も積極的に情報開示をすることを願っています。

○芸術鑑賞と事業仕分け

劇場や芸術団体の活動を、「現場に行って聞き取ることをしたい。」という名目を作って、月に一回芸術鑑賞の日を決めています。これまで、歌舞伎、文楽、バレエや寄席など多彩なレパートリーで楽しむことができました。昨日は、中村紘子さんのピアノと東京フィルハーモニーの演奏会に行ってきました。去年の暮れ、中村紘子さんは、事業仕分けの結果に憤慨されて副大臣室に来られ、「中川副大臣、芸術、特にオーケストラを維持して、国民に最高の音楽を届けることは、とっても大事。文化立国の旗を降ろしてはいけません。」と、大いにしかられたのでした。